

かまくらかいどうしゅうへん
鎌倉街道周辺遺跡

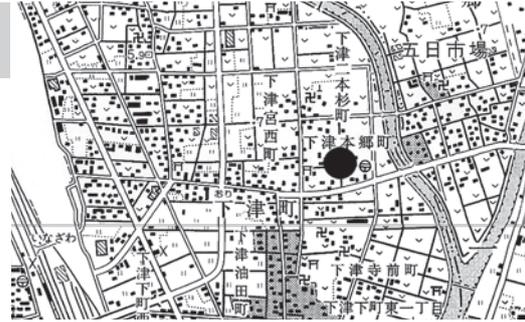
所在地 稲沢市下津本郷町・下津宮西町
(北緯35度15分19秒 東経136度49分52秒)

調査理由 県道名古屋豊山稲沢線建設

調査期間 平成21年5月・10月

調査面積 200㎡

担当者 石黒立人・永井宏幸



調査地点(1/2.5万「一宮」)

調査の経過 調査は愛知県建設部道路建設課による県道名古屋豊山線建設に伴う範囲確認調査として、愛知県教育委員会の委託を受けて平成21年5月と10月に実施した。調査では、県教育委員会の試掘調査の結果を受け、トレンチを22か所設定した。

立地と環境 遺跡は青木川の右岸に位置し、現況で標高6mの沖積地に形成された自然堤防上に立地する。本遺跡は、青木川右岸に想定されている鎌倉街道を中心とした南北3km東西500m前後が想定されている。西方に隣接する下津新町遺跡は当初本遺跡に含まれていたが、調査結果から独立した遺跡名がついた。下津新町遺跡の西に下津北山遺跡、今回の調査対象地から北へ500mに下津城がある。

調査の概要 5月の調査(中央地区)は10ヶ所トレンチを設定した。対象地東端に設定したT.T.01とT.T.02は全トレンチ中最も遺物量が多く、遺構が重複し展開していた。遺物は室町時代(古瀬戸後期)を中心とした器種豊富な中世陶器類、土師器、青磁など多岐にわたる。一方、調査対象地西端に設定したT.T.03とT.T.04は南北方向に延びる幅約3mの大溝とその下位の溝(T.T.03)を確認した。上位の大溝は遺構の切り合い関係などから判断して戦国期以降と思われる。この下位の溝については、古瀬戸後期を中心とする遺物が出土することからT.T.01とT.T.02と同一時期に比定できる。これら両端地点以外のテストトレンチでは、中世陶器を中心に安定して遺物が出土した。T.T.06とT.T.07以外は遺構が多数展開していた。

10月の調査(東地区・西地区)は中央地区の調査を受けて、前回の東西2地区を対象として12ヶ所トレンチを設定した。東地区に設定したT.T.01～T.T.03は遺物量が多く、遺構が重複し展開していた。遺物は室町時代(古瀬戸後期)を中心とした器種豊富な中世陶器類、土師器、青磁など多岐にわたる。一方、西地区に設定したT.T.04～12もT.T.12以外は中世陶器を中心に遺物が出土した。T.T.04～T.T.07を設定した対象地は、中央部分に攪乱が予想される。T.T.05では遺構・遺物を確認したもの、これ以外のトレンチではほぼ攪乱が占め、削平されていた。T.T.08は一部試掘トレンチによる削平があるものの、古代末の遺構・遺物が確認された。T.T.09～11は室町時代を中心とする遺構・遺物が確認された。T.T.10では鎌倉時代の遺構・遺物が確認され、一部に遺構が2面存在すると思われる。T.T.12は、中世期以降の包含層が現況の水田造成時に一部削平されている。下位には谷地形が確認され、T.T.12の東側の公道辺りから地形の落ち込みが予想される。

今回の調査によって、室町時代を中心とした遺跡が確認できた。地点によっては遺構が多数重複する箇所もある。古瀬戸製品は器種が豊富で、一般集落とは様相が異なる。寺院あるいは下津城周辺に推定されている尾張守護所関連施設の可能性が指摘できる。

(永井宏幸)

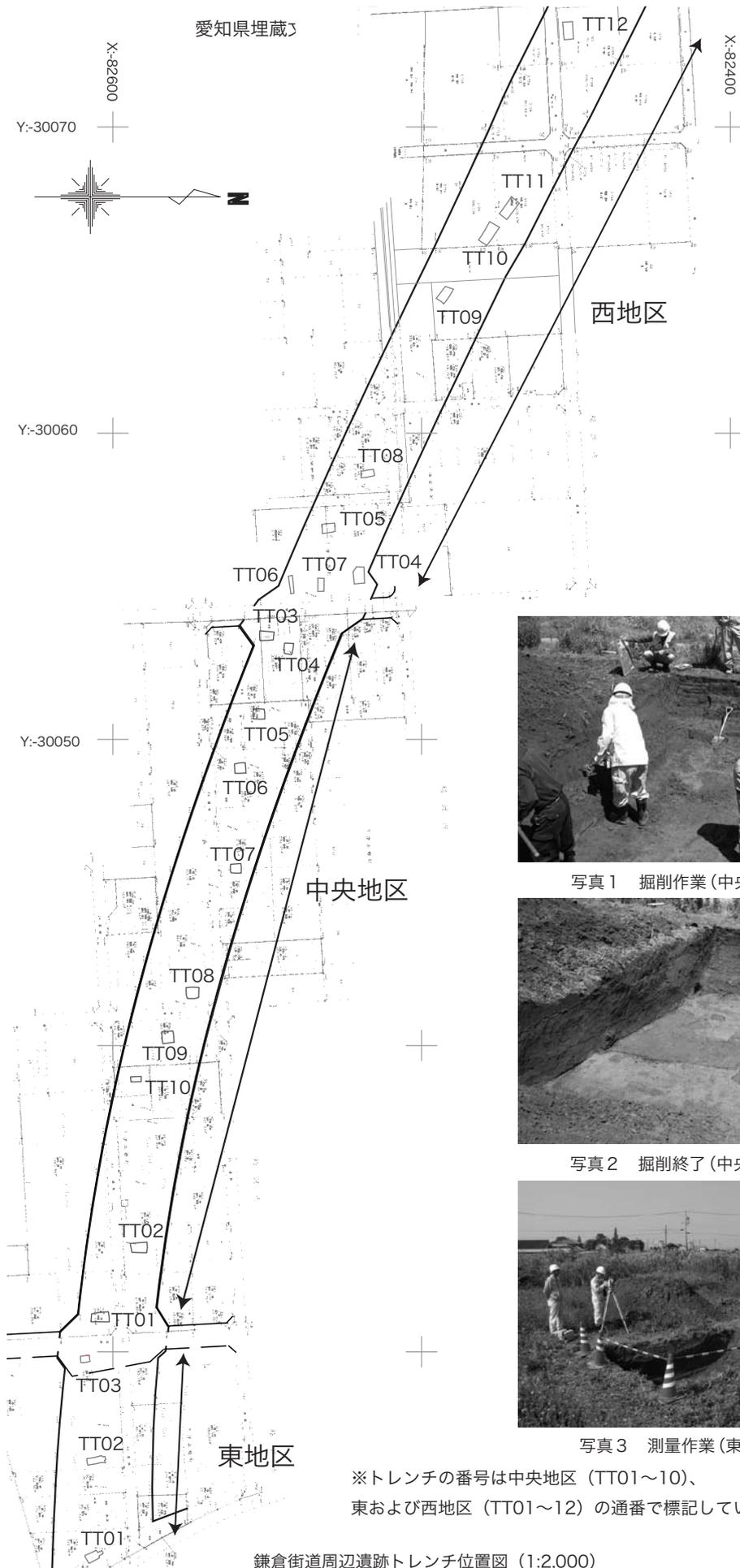


写真1 掘削作業 (中央地区TT02)



写真2 掘削終了 (中央地区TT02)



写真3 測量作業 (東地区TT02)

※トレンチの番号は中央地区 (TT01~10)、
東および西地区 (TT01~12) の通番で表記している。

鎌倉街道周辺遺跡トレンチ位置図 (1:2,000)